

情報連絡員報告を中心とした
県内の中小企業動向
10月

■パン製造 【県内全域】
県内全ての組合員において「学校給食用米粉パン」の統一された製造技術が確立され、12月より給食への対応が可能となった。
組合員数は前年同月の27名から23名に減少した。

■漬物製造 【県内全域】
金融が逼迫し資金繰りが悪い。組合員の脱退気運が強い。

■味噌製造 【県内全域】
原料の米が入手困難となり、価格が高騰、収益の悪化につながっている。

■めん類製造 【県内全域】
11月の価格改訂交渉は各社の状況によりかなり異なっている。一部で春に実施できなかつたところは積極的に進めているが、大多数は見送りと思われる。

■魚加工製造 【銚子】
金融機関の一部には担保評価の見直し等、貸出基準に厳しさが見られるが全般的には変化なし。

■シャツ製造 【千葉・東京】
売れ筋がみつからない。悪い中

でも小間物は少し動いている。縫製業をやめるところが増えている。
■製材 【県内全域】
依然として低迷の状態が続いている。組合で実施した千葉県優良木材展示即売会の取扱高は前年の68%にとどまり、財務は今後さらに影響を受ける見込み。

■印刷 【県内全域】
売上高についてはほぼ横ばい。10月に鹿児島市で開催された全日本印刷文化展においてフォーラムが行われ、「業態変革実践プラン全印工連2010計画」のキックオフを行った。テーマはワンストップサービス。印刷付帯サービスを取り込んで組合員企業の売上・収益向上をめざす計画である。

■生コン製造 【県内全域】
単月前年比90・8%と減少続く。上半期累計では82・6%と最悪の状況が続いている。全国ベースでも落ち込みは激しいが、千葉県はその中でも著しく落ち込んでいる。

■電気鍍金 【県内全域】
10月に入り景況は相当悪化してきているが、12月の受注はさらに悪化するようだ。不況業種指定の申請を準備中。

■鉄工 【千葉】
一連の金融危機が实体经济へ影響を与えるとの不安が台頭、直近の円高、株安もあつて景況悪化に拍車がかかっている。

■機械部品製造 【野田】
収益状況は依然厳しい状況が続いている。不況による運転資金難の情報が増えてきている。

■採石 【県内全域】
燃料費の高騰にもかかわらず、価格が抑えられているため収益増とはなっていない。また、価格の切り崩しが一部で起こっており、価格の安定維持に危惧する面あり。景気浮揚策として大型の公共投資が望まれる。

■土砂採取 【県内全域】
各単協連名で公共団体及び一般企業に対して骨材の積算価格に実勢価格の迅速な反映を図られるよう陳情した。
組合員は昨年比10社減つて、現在273社。

■石油製品製造 【富津他】
元売りの原油値下げにより、バイオ燃料との価格差が縮まってきた。

世界恐慌の影響で資金提供者が激減している。当組合は国内金融

機関ではなく、海外投資家からの資金援助なので、世界同時株安でかなり苦しい立場だ。

■総合卸売 【千葉・東京】
現在のところ、融資を受けている4行（地元3行と商工中金）の融資姿勢に変化なし。

■食肉卸売 【千葉他】
飼料高で飼育頭数を減らす等、経営を縮小する酪農家が増えた。

■建築材料卸売 【県内全域】
袋セメントは10月より値上げ実施し、建材店向けはほぼ浸透した。然しセメントは最終的にはセネコンしか売先が無いため、営業姿勢としては縮こまっている。コストはオイルショック時点以上に高騰しているため、来春にはもう一段の大幅値上げを余儀なくされるはずだが、需要が極端に減少し、回復のメドが立たないために価格転嫁は至難。合理化・統廃合が避けられない。

■自動車解体 【県内全域】
金属スクラップの急激な暴落により各社かなりの損失を被っている。

■自動車一般整備 【県内全域】
廃業1社、2社脱退希望がある。景況は相変わらず厳しい。鉄ス

クラブ等の価格変動のためリサイクル車が減少、組合収入も減っている。

■一般廃棄物処理 【千葉】
有価物の価格が下がってきたので売上高は増加したものの、収益状況は前月と変わらないか若しくは少し悪化したように思う。

■学習塾 【県内全域】
10月に千葉市内において公立高校の入試説明会を行なった。35校の学校と1500名の父兄・生徒が参加し大盛況であった。

■土木建築サービス 【県内全域】
景気減速が、公共事業にも影響を及ぼす可能性がでてきた。事業量の減少が、低価格入札を増加させている。

■ソフトウェア 【県内全域】
景況は悪化している。

■貨物運送 【野田】
景気の後退が叫ばれているが、今のところ輸送量にかけりは見られないが、年末に向けた需要低下の懸念は大いにあると思われる。